

# 世界遺産論

## 第3講 世界遺産の概念

瀬戸 敦子(岐阜女子大学)

# 第3講 世界遺産の概念

第2講では、世界遺産リストに記載されるまでの登録のプロセスと世界遺産に関するさまざまな取り決めを行う機関「世界遺産委員会」について学びました。今日、第3講では、世界遺産の**顕著で普遍的な価値の証明**として掲げられている概念について学びます。（世界遺産の基礎知識3回目）

## 【何を学ぶか】

- 真正性と完全性
- 人間と生物圏計画（MAB計画）
- 文化的景観
- シリアル・ノミネーション・サイトとトランスバウンダリー・サイト
- 近年の世界遺産委員会の動き

## 【学修到達目標】

- 世界遺産の概念「真正性」「完全性」「文化的景観」「シリアル・ノミネーション・サイト」「トランスバウンダリー・サイト」とは何か説明できる
- 人間と生物圏計画（MAB計画）について、コア・エリア、バッファー・ゾーン、トランジション・エリアの違いと世界遺産条約における文化・自然保護に関する考え方について説明できる

## 世界遺産の概念

1. 真正性 (authenticity)
2. 完全性 (integrity)
3. 文化的景観 (cultural landscapes)
4. トランスバウンダリー・サイト (Trans-boundary Site)
5. シリアル・ノミネーション・サイト (Serial Nomination Site)
6. 人間と生物圏計画 (Man and the Biosphere program)
7. グローバル・ストラテジー

## 真正性と完全性

### ①真正性 authenticity

建造物や景観などが、その文化のもつ独自性や伝統、技術を継承していること。  
とくに、**修復の際は、厳密に伝統的な技術や部材などが用いられていることが求められる。**

POINT

- ・ 1964年 ヴェネツィア憲章の考え方を反映
- ・ 1994年 **奈良文書**（真正性に関する奈良会議）採択

ヨーロッパは石文化  
アジア&アフリカは木・土文化



遺産の保存は地理や気候、環境などの自然条件と、文化・歴史的背景などとの関係のなかですべきである



古都奈良の文化財 薬師寺（日本:1998）

**国・地域ごとの気候風土、文化・歴史のなかで営まれてきた保存技術や修復方法でのみ真正性を保つことができる**

## 真正性と完全性

### ②完全性 integrity

十分な広さや保護のための法律、予算、保全計画など、遺産の顕著な普遍的価値を証明し保護・保全するための必要条件がすべて整っていること。



第6回世界遺産委員会特別会合（2005年）～

「**世界遺産条約履行のための作業指針**」で定められている  
世界遺産の登録基準10項目のうち一つ以上当てはまること！

#### 完全性を証明する条件

- ・ 顕著な普遍的価値が発揮されるのに必要な要素が全て含まれているか
- ・ 遺産の重要性を示す特徴を不足なく代表するために、適切な大きさが確保されているか
- ・ 開発あるいは管理放棄による負の影響を受けていないか

★世界遺産条約履行のための作業指針

世界遺産委員会で審議・決定した世界遺産に関する諸事項をまとめた（必要に応じて改定）指針

## 人間と生物圏計画とは

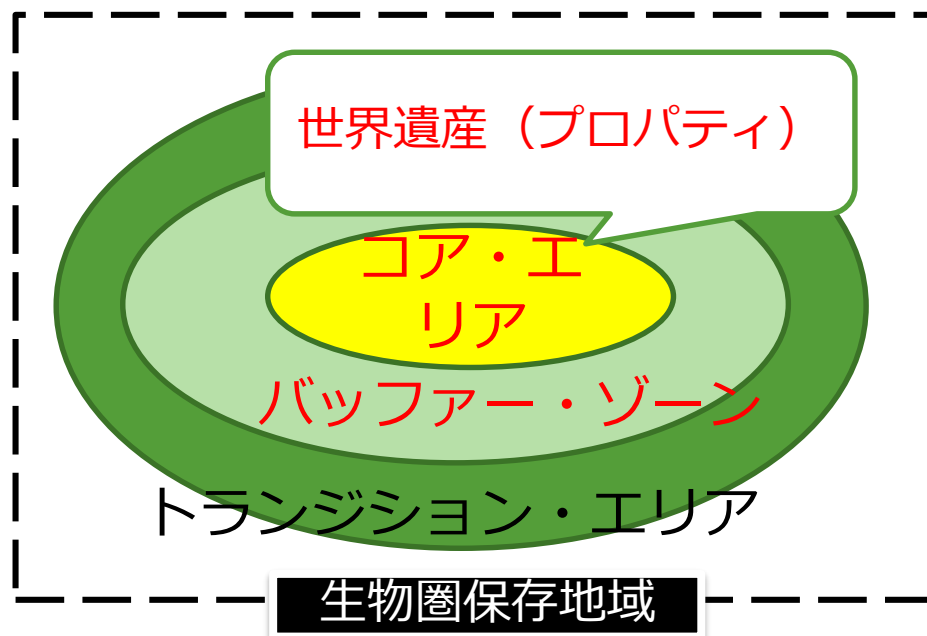
### ③MAB計画（人間と生物圏計画）

#### Man and the Biosphere program

コア・エリア＝核心地域（保存する区域）

バッファー・ゾーン＝緩衝地帯（保全を妨げる活動を制限する区域）

トランジション・エリア＝移行地帯（保全を基調とした持続可能な社会経済開発区域）



社会生活や商工業活動などの人間の営みと自然環境の相互関係を理解し、環境資源の持続可能な利用と環境保全を促進することを目的に、ユネスコが1971年に立ち上げた研究計画。

世界遺産条約での援用（2005年～）  
コア・エリア＝プロパティ  
バッファー・ゾーン

※2005年より世界遺産において、バッファー・ゾーンの設定が自然遺産と文化遺産双方において厳密に求められるようになった。バッファー・ゾーン自体は世界遺産登録の範囲に含まれないが、世界遺産リスト登録後にバッファー・ゾーンを変更する際は、世界遺産委員会の承認を得る必要がある。また、バッファー・ゾーンを設定しない場合は、その理由を登録推薦書に明記しなくてはならない。

## 文化的景観とは

### ④文化的景観 cultural landscapes

文化的景観は、1992年の第16回世界遺産委員会で採択された概念で、世界遺産条約1章1条の「遺跡」の定義のなかの、「自然と人間の共同作品」に相当するものである。人類が長い時間をかけて自然と共に創り上げた景観や、自然の要素が人間の文化と強く結びついた景観のことを指す。

#### POINT

自然景観と人工の景観の両方が含まれ、文化遺産に分類されるもの、文化遺産と自然遺産の境界に位置する遺産といえる。



トンガリロ国立公園（ニュージーランド:1993）

出典：UNESCO World Heritage Centre – World Heritage List



紀伊山地の霊場と参詣道（日本:2004）

シリアル・ノミネーション・サイトとトランスバウンダリー・サイト

### ⑤ トランスバウンダリー・サイト Trans-boundary Site

#### 国境を越える遺産

国境をまたいで存在する自然遺産や、同じような特徴を持つ複数の遺産が国境を越えて存在する時に、多国間の協力の下で世界遺産登録するもの。

POINT

出来る限り関係締約国が共同で登録推薦書を作成し、共同管理委員会・機関を設立し遺産全体の管理を監督することが求められる

### ⑥ シリアル・ノミネーション・サイト Serial Nomination Site

#### 連続性のある遺産

文化や歴史的背景、自然環境などが共通する複数の遺産を、「ひとつの遺産」として登録するもの。

- ・ 同一の歴史・文化群に属するもの
- ・ 地理区分を特徴づける同種の遺産であること
- ・ 同じ地質学的、地形学的、または同じ生物地理区分もしくは同種の生態系に属するもの

# 第3講 世界遺産の概念

## 最近の世界遺産委員会・総数とその内訳

### 第44回 世界遺産委員会 @中国・福建省福州市

2020年6月29日～7月9日に行われる予定であった第44回世界遺産委員会は、新型コロナウイルス感染拡大の流行のため開催が中止。

<その時審議予定であった日本の推薦物件>

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島（沖縄・鹿児島）

2018年に「登録延期」勧告を受けて、再推薦されたもの。

北海道・北東北の縄文遺跡群（北海道・青森・秋田・岩手）



2021年 世界遺産委員会  
（中国・福建省福州市 オンライン開催）

- 推薦物件2件とも、正式に「世界遺産」として登録
- 日本の遺産 計25件（文化遺産20件 自然遺産5件）

# 第3講 世界遺産の概念

## 最近の世界遺産委員会・総数とその内訳

2022年6月19～30日

第45回 世界遺産委員会@**ロシア カザン**

2022年2月24日に発生したロシアによるウクライナ侵攻により開催地変更の要望が高まり、延期決定。11月22日にロシア開催を断念。



2023年1月25日

第18回 世界遺産委員会臨時会議

臨時会議において、3件の新たな世界遺産が誕生。その全て**緊急的登録推薦**。  
(世界遺産登録+危機遺産登録)



2023年9月10～25日

第45回 世界遺産委員会@**サウジアラビア リヤド**

- 新規登録審査は、2022年、23年の2年分をまとめて行うことが決定。
- 日本からの推薦物件はなし。

## 最近の世界遺産委員会・総数とその内訳

<復習>



### POINT

- ◆ 今回の世界遺産委員会で審議された推薦物件50件中42件（文化33.自然9）が世界遺産へ登録される
- ◆ 危機遺産は新たに2件追加、1件が危機遺産リストから外れ、合計56件
- ◆ 今回、ルワンダからも新たに世界遺産が誕生し、遺産を保有する国は168か国へ
- ◆ 次回2024年度の世界遺産委員会は、インド・ニューデリーで開催決定（2024.2現在）

## (1) ワークブック

世界遺産の基礎知識④「世界遺産の概念」

レポート課題（発展的課題）

(2) 前年度行われた世界遺産委員会では、どのような審議内容が行われたかを調べ、世界遺産委員会が抱える諸問題について言及しなさい